

そもそも学校で何を学ぶのか？国語、数学などの教科を学ぶ、社会のルールを学ぶ、他者との関わり方について学ぶ、……、いろいろ考えられます。でも、テストで良い点数を採らせるために授業をしている訳ではなく、知識としての社会のルールでは役に立ちません。学校は、その子が将来、社会の中で人としての尊厳を保ち、豊かに生活するために必要な力を育てる場所だと考えます。学校で子どもたちは、教科の学習、特別活動、学校生活全般をとおして、正しい知識、技能、態度を身に付けていきます。これは特別支援学校も同じです。ただ特別支援学校においては、その障害の種類に応じて、環境、内容、方法などを変えて学習しています。久喜特別支援学校は知的障害を有する子どもたちを対象とする特別支援学校ですから、主に教科の学習における内容、方法を変えて学習しています。なぜ、その様に変えているのかは長くなるのでここでお話しませんが、どのように変えているかは学校見学等でご覧いただいたことと思います。

久喜特別支援学校で一人一人の将来を展望して、その子に必要な力を培ってまいります。その時、大切なことは家庭との連携です。毎年、保護者面談において保護者のお話をうかがい、その年の支援プランを作成いたしますが、日々ご家庭と連絡を持ちながらお子様の成長に応じて指導支援の在り方を見直ししております。もちろん、劇的に変わるなどということはありません。日々、少しずつ理解して、出来るようになっていく小さな積み重ねですが、ご家庭と学校がお子様の成長を共有しながら毎日の学習を進めていきたいと存じます。保護者の皆様には、ぜひご理解とご協力をお願い申し上げます。

校長 池田 宏